

2018 vol.54

UR

UR都市機構の情報誌 [ユーアールプレス]

P R E S S

特集 未来に向けて
「コミュニティ」の
種をまく



Special
Interview

目指すのは「熱量」が届く舞台。
その瞬間に感じたことを
素直に表現したい

俳優

吉沢 悠さん



01 暮らしのカケラ⑤ 「授かるもの」 角田光代

03 Special Interview 未来を照らす⑩

吉沢 悠

さん 俳優

目指すのは「熱量」が届く舞台。その瞬間に感じたことを素直に表現したい



07 特集

未来に向けて「コミュニティー」の種をまく

09 多摩ニュータウン 永山団地

巨大団地の全身に、新しいコミュニティーという血液が流れ始めた

13 香里団地 みんなの笑顔が咲いたD51プロジェクト始動

15 高蔵寺ニュータウン これからの50年に向けて大学生パワーを注入

17 八千代ゆりのき台パークシティ

地域コミュニティーアプリがつむぐ ゆるやかなご近所づきあい

19 おいしい団地① 光が丘パークタウン ゆりの木通り北「小万」日の里一丁目団地「レストラン・アワノ」

20 東日本大震災 復興の歩みフォト&スケッチ展2018 作品募集中!

21 URのまちづくり最前線⑥

多世代が育む「循環型」のまち 江古田の杜(東京都中野区)



23 URのまち あのまち・このまち・歩いてみよう! その⑩

サンヴァリエ金岡周辺(大阪府堺市)

25 復興の「今」を見に来て!⑩

まちの核となる 注目の産業団地の整備、始まる! 福島県浪江町

27 ベランダで楽しむ 四季の寄せ植え⑤ 黒田健太郎

ユーカリを主役に、葉色を楽しむ爽やかな寄せ植え



28 防災グッズの新常識⑤ 高荷智也

高齢者世帯の防災対策「避難所へ行かない準備」が重要!

28 男子弁当のススメ!⑨ 相田幸二

メンチカツと枝豆ごはん弁当

29 プレゼント付きクロスワードパズル

30 UR INFORMATION

季刊「UR PRESS」Vol.54 2018年7月31日発行

発行 独立行政法人都市再生機構 〒231-8315 神奈川県横浜市中区本町6-50-1 横浜アイランドタワー Tel 045-650-0882 Fax 045-650-0889

制作 新潮社、編集室りっか デザイン 太田デザイン事務所 印刷 大日本印刷 ※本誌掲載の記事、写真、イラスト等の無断転載を禁じます。 ※本文中の肩書きは取材時のものです。

表紙の世界

身近に木があるというのは素敵ですね。緑に癒やされ、四季が感じられます。子どもの頃にたくさん木の植わった環境で育ったので、眺めていると肌で覚えた感覚がよみがえり、幸せな気持ちになります。

イラストレーション 小林マキ



先 日訪れた和歌山では梅だった。お鮭屋さんで、「これみなさんで」と、びっくりするくらい山盛りの梅が出てきた。梅酒に使った梅をお茶うけに食べるらしい。果肉たっぷりの大きな梅である。このサイズの梅、あの八百屋さんだったら一キロ八百円、あのスーパーだったら千五百円……、と無意識に考えている自分が、ちよつと恥ずかしい。

かくた・みつよ 作家。1967年、神奈川県生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。1990年「幸福な遊戯」で海燕新人文学賞を受賞しデビュー。「対岸の彼女」(文藝春秋)での直木賞をはじめ著書・受賞多数。最新刊は「私はあなたの記憶のなかに」(小学館)。



角田光代

暮らしのカケラ

授かるもの

庄

内地方を訪れたとき、お茶の時間に、お茶と山盛りのただちや豆が出てきて驚いた。その場には五人いたのだが、山盛り一皿で五人ぶんなのではない。山盛り一皿がひとりぶん。多くの家でただちや豆を栽培していて、季節になると、毎日毎食食べても余るくらい収穫できるらしい。

ただちや豆という名前を東京でも聞くようになったのはせいぜいこの十年くらいで、以前はまったく知らなかった。今だって東京のどこでも手に入る、というわけではない。しかも高価だ。はじめて食べたときは、たしかに味の濃さに驚いた。私にとってただちや豆は「貴重品」の分類である。だから、山盛り一皿を見てなんとも不思議な気持ちになった。そういえば、仕事で青森にいったとき、どこでもリンゴを出してもらったことがあった。このときはテレビのロケで、一日に三、四軒の家庭やお店にお邪魔したのだが、そのどこでも、「これみなさんで」と剥いたリンゴを山盛りで出してくれた。しかも帰り際には、「みなさんで」と、ビニール袋にリンゴを四、五個小分けして渡してくれた。このときも私は不思議な感覚を抱いた。

リ

リンゴは、私の住む町では百五十円から五百円する。八百屋さんでは二百円、安くて百五十円、某スーパーマーケットでは二百二十円、某スーパーマーケットでは五百円。つまり、値段を見て「五百円だから買うのをやめて、キウイにしよう」とか「ひとつ二百円だけど三個だと五百円か」などと考えて買うものなのだ。ななここでは、まるで拾い放題の松ぼっくりみたいな扱いでじゃんじゃんリンゴが出てくる。ただちや豆も、リンゴも、その土地の人にとっては買うものではなくて、授かるものなのだろう。

そ

んなふうにかがたくさん収穫できて、それがあつことが当たり前である、そういう土地に住んだことがない。だから、その感覚がわからない。ただちや豆でもリンゴでも、こんなに毎回山盛りで食べるのなら、飽きてしまつて見たくもない、とならないのだろうか、と思うが、その土地の人は、「ただちや豆を食べると枝豆なんか食べられない」とか「やっぱり青森のリンゴはおいしいでしょ」



photo・T.Tetsuya



吉沢悠

ひさし
さん 俳優

「目指すのは『熱量』が届く舞台。」

その瞬間に感じたことを素直に表現したい

ドラマに映画、舞台にと活躍中の吉沢悠さん。

ニューヨークへの留学、結婚などを経て、人との接し方や仕事への姿勢が変わったと語ります。プライベートでは「一人あいさつ運動」を実践中。

年を重ねることに魅力を増す吉沢さんに、映画の撮影で滞在していた種子島でのお話から伺いました。

種子島で生まれた 地元の人とのつながり

2019年に公開になる「ライフ・オン・ザ・ロングボード 2nd Wave」という映画の撮影で、つい最近まで1カ月間ほど種子島にいました。サーフィンを題材にした映画で、僕は主人公の梅原光太郎を演じています。

趣味ではずっとサーフィンをやっていますが、仕事でサーフィンのお芝居するのは初めて。種子島も初めて、と初めてづくしの現場でした。2020年の東京オリンピック・パラリンピ

ックでサーフィンが正式種目になったので、喜多一郎監督としては、その1年前に公開してバツアップできたら、という思いもあるようです。

種子島は、地元の人々のデジタルへの受け入れ体制がすごくいいんです。「オリジン」という有名なサーフィショップの店長さんがアテンドして、種子島のサーフポイントを教えてください。島のいろいろな場所で撮影し、エキストラでも島の人たちとたくさん協力してもらい、全面的にバックアップしていただきました。大杉漣さん主演の「ライフ・オン・ザ・ロング

ボード」という前作があり、そのときにスタッフと島の人とがいい関係を築けたこともよかったのですね。

種子島では、ローカルの友達がたくさんできました。安納芋の加工品を作っている会社の社長さんのご自宅に呼んでいただいたり。冗談か本気かわからないんですけど、何も持たずに来ても、島の人に心を開けば、この島では飯が食える、誰かが助けてくれるって、島の人に言われて。喜多監督も、前作でそういう雰囲気を感じたので、また種子島でやりたいと、最初に強く言われました。島の人が「ラ

ライフ・オン・ザ・ロングボード」というタイトルにすごく思い入れがあるから、全く違う話だけど「2nd Wave」とつけて、流れを汲んだ、という話もしていましたね。

防災にもつながる 「一人あいさつ運動」

種子島で一番驚いたのは、海へ行って、こちらが「こんにちは」「おはようございます」と声をかけると、全員があいさつを返してくれることですね。あいさつすると、雰囲気がよくなるじゃないですか。その延長で「この人いい人だな」みたいな気持ちが生えて、「この波は、こういうふうに乗ったほうがいいよ」とか「このポイントは、もっと奥に行ったほうがいいかも」とアドバイスしてくれるんですよ。それがすごく楽しかったし、こういうことが大事なんだ、と再確認できました。

あいさつに関して言えば、父が消防士だったので、子どもの頃は社宅暮らしで、普段からまわりの人とあいさつし合う環境で育ちました。団地みたいに子



よしざわ・ひさし
1978年生まれ、東京都出身。
18歳のときに「夢カヲオケオーディション」の
準グランプリに選ばれたのをきっかけに芸能界デビュー。
2005年に芸能活動を休止し、ニューヨークに留学。
その後、芸能活動を再開。映画、舞台、ドラマ、ラジオなどで活躍する。
趣味はサーフィン、旅行、サバイバルゲーム。

芸能界とニューヨーク、 結婚が自分を変えた

どもがいっぱいいて、遊び道具の貸し借りをしたり、放課後に学年も関係なく遊んだり。人との距離感がすごく近かったですね。

現在はマンションに住んでいるのですけれど、「一人あいつ運動」というのを実践しています(笑)。学生にも「おはよう、今日、学校？」と声をかけたりね。声をかけても無視されることが多いですが、あきらめずに率先してあいさつし続けているんです。

いま、日本列島で地震や豪雨などの災害が多いじゃないですか。あいさつをして近所とのつながりが生まれることが、防災にもつながると思うんです。隣の人の顔を知っていれば、「あの人、大丈夫かな」と考えるし、相手も思ってくれる。顔見知りの人が近くにいる安心感は大いいです。世の中の自分にとっても、あいさつすることが、安全で安心な環境づくりや見守りにつながるのではないかと思いますね。

神様がそういう人を与えてくれたのでしょうか。いいパートナーですね。

今秋、話題の舞台に主演 自分らしく表現したい

9月28日からは「華氏451度」という舞台で、主人公のガイ・モンターグを演じます。演出が白井晃さん、上演台本が長塚圭史さんと、面白い舞台になる要素が揃っているんで、8月から始まる稽古や本番はどうなっていくんだろうという期待が大きくなっています。

原作は、アメリカの作家レイ・ブラッドベリのSF小説で、本の所持が禁止されている架空の社会が舞台になっています。テレビや映像が溢れて人間の思考を麻痺させていくという設定ですが、インターネットやスマホなどに置き換えられる、いまの時代に合った作品なのでは、と思っています。

舞台でも映画にしても、以前は台本をきっちり読み込んで、こういう感じになるんだろうなと予想を立てて本番に臨んでいました。それが、最近はこちら

と変わってきたんです。種子島では、台本を読んで頭で考えていたものではなく、現場にあるものを僕自身が素直に感じて、理屈や言葉にならない表現を作品の中に置いてこられたと思っています。それをお客さんが見て、「あれ、なんかこのシーンいいな」と思ってくれたらうれしいですね。

今回の舞台は、キャストの皆さんが個性派揃いなので、こつちが気負っていると対立してしまうような気がして。気負うことなく、素直な気持ちで取り組み、お客さんと一期一会の瞬間を持たせたいですね。そして、役者の熱量が届くような舞台にしたいですね。

常にビジョンを持ち 海外にも挑戦したい

将来についてですか？ 活動の場が広ければ広いほどいいですね。映画とか舞台とか、日本だけじゃなくて。



サーフィンの聖地、種子島で撮影された映画「ライフ・オン・ザ・ロングボード 2nd Wave」は2019年春に公開予定。吉沢さんは主人公・梅原光太郎役に出演。もともと趣味でサーフィンを嗜んでいたものの、この作品のために合宿練習でテクニックに磨きをかけたという。
©前田昭二

友達に、サッカーの本田選手の分析官をしていた人がいるんです。彼はFCバルセロナの監督になりたいと単身ヨーロッパに渡り、最終的に女子リーグのFCバルセロナの監督になった

でも実際に仕事を始めてみると、学ばなければならぬことが多くて、壁にぶつかりました。それは成長のきっかけにもなりましたが、もともとあまり自立したくない性格なので、いっぱいはいっぱいになってしまつて。芸能界を離れて、ニューヨーク

もともと僕は、自分の考えや思いを伝えるのがすごく苦手。自分が変わった一番のきっかけは、芸能界に入ったことですね。恥ずかしいという気持ちが大きくて、表現方法がわからなかつたときに映画やドラマを見て、「台本を読んでいるのに、自分の心の底から言っているように伝える俳優って、すごい」と思つたんです。そこから、表現方法を知りたい、苦手意識をなくしたい、と役者を志しました。

に行つたんです。

現地では英語の語学学校に通い、そこで韓国人の友人ができました。言葉はほとんどわからなくても、頑張つてコミュニケーションをとろうとした経験が、後の韓国ロケでも生きました。

ニューヨークではブロードウェイにもよく行きましたね。安いチケットを買うから後ろのほうの席で、僕のところまで役者の熱量がなかなか届かないんです。でも、本当にすごい人って、一番後ろの席まで届くんですね。それに心が震えて、「なんで俺はこつちの観る側にいるんだろう。あつちの演じる側に戻りたい」と悔しく思つたのが、帰国のきっかけになりました。

あと、自分が変わった大きな要因としては……やっぱり結婚かなあ。いい意味で、思いどおりにいかないですものね、結婚生活は。僕はもともと忍耐強いほうなんですけど、妻は自由奔放な人なんで、いまは自分でも謙遜せずに「忍耐強い」と言えるくらい成長しました(笑)。妻が自由な発想をする姿を見ると、自分は考え過ぎだと思えてくる。

すごい人なんですけど、会うたびに「人に笑われようが、バカにされようが、自分がこうしたい」というビジョンを常に持ち続ける。強く思つてたら、おまえだつたら絶対できる」って言われるんです。

いまは日本にいながら海外の作品に参加できるチャンスもある。縁とタイミングと運があれば可能性は開けるので、あきらめずに努力したいと思つてます。そのために英語の勉強を積み重ねるなど常に準備を怠らず、自分に厳しく、強い気持ちを持つていきたいですね。

吉沢さんが主人公ガイ・モンターグ役で出演するレイ・ブラッドベリ原作の舞台「華氏451度」。上演台本を長塚圭史氏、演出を白井晃氏が担当する話題の舞台で、9月28日～10月14日にKAAT神奈川芸術劇場で上演。
©二石友希



「UR PRESS」オンライン版で、パソコンやスマートフォンから吉沢 悠さんのインタビュー動画をご覧ください。(2018年10月末まで)



WEB UR PRESS

「UR PRESS」オンライン版で、パソコンやスマホからドローンで撮影した多摩ニュータウンの動画がご覧いただけます。



特集 未来に向けての コミュニティの 種をまく

少子高齢化が大きな社会問題となっている今、もちろん団地にもその波が押し寄せている。URは団地の未来を見据え、新たなコミュニティづくりを支援するなど多様な世代がともにいきいきと暮らすミクストコミュニティへの取り組みに挑戦している。



上/「さつき祭り」にあわせて「ネコサポ2周年感謝祭」を実施。宅急便のセールスドライバーになる「こども職業体験」は大人気だった。
左/ネコサポステーションのキャストとコンシェルジュ。前列中央が渡辺さん、後列右が神南さん。



永山団地商店街が毎年開催する「さつき祭り」には、子ども連れから高齢者までたくさんの人々がやってきて、団地でのひと時を楽しんでいた。



5月の土曜日。新緑がまぶしい多摩ニュータウン永山団地商店街には、子どもからお年寄りまでたくさん人が集まっていた。この日は商店街主催の「さつき祭り」。

全国初の「ネコサポ」が団地をサポート

5月の土曜日。新緑がまぶしい多摩ニュータウン永山団地商店街には、子どもからお年寄りまでたくさん人が集まっていた。この日は商店街主催の「さつき祭り」。

採れたて野菜や手作りドーナツのコーナーには人があふれ、ベンチでは子ども連れのママたちが楽しそうに談笑している。

それらの人をかき分けながら、宅急便の小さな制服と帽子に身を包んだ子どもが、お店に荷物を届ける姿が目をついた。商店街にある「ネコサポステーション永山」が企画した「こども職業体験」のひとつコマだ。住民同士の接点が増

巨大団地の全身に、新しいコミュニティという血液が流れ始めた

昭和40年代、日本に誕生したニュータウンの先駆けのひとつ、多摩ニュータウン。誕生から50年近い歳月を経て、最近ではニュータウンの少子高齢化が顕在化。URは行政やNPO、それに物流会社とも連携し、新たな元気の種を巨大な団地にまき始めている。そんな多摩ニュータウンの「今」を訪ねた。

ネコサポを立ち上げました」イベントを開催して徐々に団地の皆さんと知り合い、ネコサポを認知してもらえようになると、団地の人々が求めているものがかつてきたという。

見えてきた団地の実情 求められるサービスとは

ネコサポは、①コミュニティ拠点としての機能のほかに、②一括配送 ③買物代行 ④買物便 ⑤家事サポートの5つのサービスを柱としている。

ヤマト運輸多摩主管支店でネコサポを担当する渡辺桂祐さんは、「一人暮らしの高齢者は買物に困っているのではないかと始めた『買物代行』ですが、実際には、買ったものをネコサポに持ち込めば、スタッフが自宅まで届ける『買物便』を利用される方が多いなど、当初考えていたものと異なる実情が、少しずつ見えてきました」と現状を分析する。

関連会社のヤマトホームコンビニエンスが行う、エアコンの清掃や網戸の張り替えといったプロの仕事も喜ばれている。そこから「ついでにちょっとこれも」と頼まれ

ることも増えてきた。

「ネコサポを始めて見えてきた今の永山団地は、外から見ていたときよりも元気な方が多い印象です。また、団地の中には小さなコミュニティがたくさんある。しかし、それを貫く横串がないということもわかってきました。これからもネコサポからさまざまな情報を提供して、コミュニティづくりや、コミュニティをつなぐきっかけになればと考えています」と渡辺さん。「ネコサポに立ち寄るようになって、高齢の母がとても元気になりました」と利用者から喜ばれるなど、スタートから2年たち、少しずつ手応えを実感しはじめています。

多世代が安心して暮らせる団地を目指して

東京都西南部の八王子市、町田市、多摩市、稲城市にまたがる東西14キロ、南北2〜3キロに広がるのが多摩ニュータウン。深刻な住宅不足を補うために、昭和30年代からURの前身である日本住宅公団が計画を立て、多摩丘陵を切り開いてつくったまちだ。1971年に入居が始まると、日本の高度経済成長と並行するように人口は増え続け、最先端の都市型ライフスタイルがここで営まれてきた。

現在URが管理する団地は、永山、諏訪、貝取、豊ヶ丘などの約1万1000戸。計画的に配置された公園も多く、緑に包まれた落ち着いた街並みは魅力的だ。

だが、ニュータウンの成熟とともに、2000年頃から地域の少子高齢化が叫ばれるようになってきた。

「多摩市全体の平均よりもニュータウンの高齢化率が高く、団地の人口減少によるコミュニティの希薄化も危惧されています。多摩はニュータウンの先駆けとしてネームバリューがあり、象徴的な存



大きく成長した木々に囲まれた永山団地。多摩ニュータウンの中で最初に開発が行われた団地だ。



PICK UP



団地内外の人々がここに集い、ゆるやかにつながるおいしい店「moi bakery」

「自分の好きなパンを自分で焼いて、それを皆さんに喜んでもらえればうれしい」

そう静かに語るの、貝取団地や豊ヶ丘団地の近くにある「moi bakery」の店主、杉山智子さん。

自家製天然酵母を使ったハード系パンや、北海道産の小麦とゲランドの塩、水と酵母のみで作る山形食パンなど、店頭に並ぶパンはどれもシンプルで真っ正直な味がする。

このパンを求めて団地内外からお客さんがやってくる。自身も3人の男の子の母である杉山さん。子育て関連やクラフト系などmoi bakery企画としてここでイベントも開催している。

「顔なじみになったおばあちゃんが、お店におはぎを持ってきてくれたことがあります。そんなことがうれしいですね。うちのパンをきっかけに、ここで団地の人も外の人も、ゆるやかにつながれる。パンを通してそんなつながりが生まれればいいなと思っています」



●moi bakery
多摩市豊ヶ丘5-5 JS八角堂 ☎080-8809-4548
◎水～金曜8時30分～15時、第一土曜のみ9時30分～17時(ランチメニューを提供)
◎日～火曜、第一以外の土曜



地域包括支援センター、見守り相談窓口のスタッフたち。センター長の木下さん(上)をはじめスタッフが積極的に外に出て、センターの存在をアピールしたおかげで、相談件数が増加。「ていねいに対応していくことがテーマ」と話す。



「福祉亭」は朝10時からコーヒーなどの喫茶メニューを用意、昼はワンコイン(500円)ランチを提供する。ボランティアスタッフを束ねる理事長の寺田さん(右)は、「友人と地域活動があり、この団地を離れなかった。それが自分の場づくりにもなっていた」と話す。



TAMA NEW TOWN NAGAYAMA

在。その対策に、URをはじめ行政や鉄道会社はもちろん、企業やNPOなどが動き始めています」多摩ニュータウンの現状をこう説明するのは、URで多摩エリアを担当するウエルフェア推進課長の福嶋健志。URでは地域の活性化を目指し、14年に永山団地などを地域医療福祉拠点団地とし、再生計画を始動させた。

具体的には、住戸内と共用部のバリアフリー化を促進し、高齢者の相談を受ける生活支援アドバイザーを2名配置。永山と貝取団地には、先に紹介したネコサポや、後述の多摩市の地域包括支援センターと見守り相談窓口を誘致して、高齢者の孤立を防ぎ、団地に多世代コミュニティをつくる取り組みを推進している。

「近くに親や子どもが住んでいれば家賃を割り引くURの近居割制度も使って、子育て世代を呼び込み、多世代コミュニティの再生を目指したい。ここで育った人は団地のよさを知っているのです。その世代に戻ってもらえるような生活スタイルを提案したいですね」と福嶋は言う。

「URは多方面との連携を通して、その実現を目指していきます」力強く福嶋はそう話す。

高齢者の健康を「食」で支える「福祉亭」

永山商店街、ネコサポのすぐお隣にある「福祉亭」は、02年にオープンしたコミュニティカフェ兼食堂。理事長の寺田美恵子さんは、現在70歳の団塊世代だ。

「団地には団塊世代が多いです。団塊世代が企業を退職して住処であるこの団地に戻ってきたとき、受け皿になるものをつくりたい。そんな思いもありました」寺田さんは福祉亭を始めた頃をそう振り返る。

長く団地内で地域活動に参加してきた寺田さんは、親子で参加し役所的な対応をする所なら、受け入れないよ」ときつく言われた。木下さんは待つのではなく、積極的に外に出て65歳以上の一人暮らしのお宅を訪問し、この施設の利用をアピール。商店の呼び込みよろしく、前を通る人々にも声をかけて利用を促した。

「その結果、自転車がなくなったとか、お父さんと離婚したい！なんていう話まで持ち込まれるようになりました。そういう話をする相手がいなかったんですね。そこから顔が見える相手との信頼関係が生まれ、いろいろな話が伺えるようになりました。支援が必要なのに気付いていない人がいたり、相談先がわからずに、そのま

きる映画会、音楽会の開催など、さまざまな活動を友人たちと行ってきた。やがてニュータウンに少子高齢化の波がやってくる、地域活動の仲間を誘われて、高齢者の「健康」を主なテーマに福祉亭の立ち上げに参加。地域の仲間と一緒に、高齢期の「居場所づくり」をスタートさせた。

始めてみると、弁当の配達を頼まれたり、買い物に依頼されたりして、高齢者の現状を知ることになった。必要があれば、同じ商店街にできた地域包括支援センターや、ネコサポにつなぐ。ケアマネージャーさんがこの店を紹介するなど、地域とも連携している。「これからは安心して暮らしていけるまちを目指して、みんなの力を合わせて、できることに取り組んでいきたい」

地域包括支援センターが商店街にやってきた

17年10月には、「多摩市中部地域包括支援センター」と「見守り相談窓口」を併設した施設が、永山団地商店街に引っ越してきた。センター長の木下公大さんは、小

まになっていたことがやっとな聞けたという人も。団地に移ってきた正解でした」木下さんは、「団地が抱える問題は、小学生から高齢者まで、ここに住む人同士が手をつないでいかなければ乗り切れない。その力をつなぐ役目を果たしていきたい」という。

ネコサポや福祉亭、それに地域包括支援センターと見守り相談窓口などの利用を通して、多摩ニュータウンに住む人々の間に新たな出会いが生まれ、それをきっかけにコミュニティが育まれていく。巨大なニュータウンの全身に、新しい血液がゆつくりと確実に行き渡り始めている。

みんなの笑顔が咲いた D51プロジェクト始動

築50年が経過した団地にエレベーターを設置する。この工事をきっかけに、住民たちが集える庭と共用空間をつくった香里団地。団地暮らしに新しい魅力が生まれ、コミュニティが育まれている。



上/ 千里青山台団地からのお客さまを迎えて、完成したD51ガーデンで記念撮影。千里青山台団地の皆さんも、新しい花壇に興味津々、植物の名前や栽培方法などの質問が飛び交った。

左/ みんなで花を植えて花壇を整備。今年2月には住民主催の完成記念イベントも行った。

4つの庭とピロティーを整備

「お待ちしてました！」
「こんにちは、おじゃまします」
マイクロバスから降りてきた人たちが、団地入口につくられた花壇の前に、香里団地の人々と笑顔であいさつを交わしている。
5月下旬の土曜日、同じ大阪府内にある千里青山台団地の人々が、香里団地D地区51号棟、通称D51と呼ばれる棟を訪れた。
団地の相互訪問は、この日で2回目。昨年9月、「みんなの庭プロジェクト」を展開して団地のあちこちに小さなガーデンをつくって楽しんでいく千里青山台団地を、



URの片岡は「団地の屋外空間を使い、住んでいる皆さんとともに、団地の魅力を上げることができるのでは」と話す。

楽しむ小道ガーデン。建物裏手の日当たりのよい場所にはハーブガーデンと、みんなで種まきをして植物を育てる種まきガーデン。これらを屋外活動のステージとしていった。
「先週まで、みんなで種をまいたヤグルマソウが、それは見事に咲いていたんですよ。部屋からもよく見えてね。その花を見ているだけで、とてもうれしくなりました」
2階に長年お住まいの女性は、すっかり花に魅せられた様子だ。
団地に庭をつくる意味を、UR西日本支社の片岡有吾はこう話す。「住んでいる人が生活動線の中で佇んだり、誰かと出会う、そんな『場』をつくるのが、コミュニティ

花壇があればみんなとつながる

ティーを育むためには大事だと思ふんです。屋外の花壇は、その『場』です。誰かが花の手入れをしたり、ピロティーから笑い声が聞こえる。なにか楽しいことをしているその横を、団地の人が歩き、その様子を見る。そこで自然とあいさつが交わされ、話が始まる。それがコミュニティが育まれるきっかけになると思っています」
「団地自治会には入っていましたが、個人的には何も活動していませんでした。それが庭づくりが始まると、皆さんの交流が生まれ、外でおしゃべりしたり、ピロティ

ーで会議をしたり、いろいろな結びつきが生まれて楽しみが増えました。他の棟から花を見にくる方もいて、この花壇には愛着もひとしお。外出先から戻ってきてこの花を見ると、ほっとしますよ」
こう話すのはD51に住んで38年になる日笠京子さん。「ガーデン」のまとめ役だ。
「最初はそんな花壇をつくっても、花を持っていかれるんじゃないか、誰が世話をするんだと反対意見も出ました。私もあまり乗り気ではなかったんです。でも、できてみたらほんとうにステキで。こんな庭があるD51が誇らしい」
そんな感想を述べるのは、キララフェスタでフラダンスを披露した女性だ。



右/4月には山田倫子さんを講師に招き、1階ピロティーで「ミニフラワーアレンジ」講座を開催、たくさんの参加者が楽しんだ。

下/キララフェスタで山田さん(右端)からハーブガーデンの説明を聞く両団地のメンバー。新しくなったエントランス前では、フラダンスも披露された。



上/エントランスに向かう小道ガーデンは宿根草を組み合わせ、四季折々に花が楽しめる。

左/美しく整ったD51棟の入口。右手がエレベーター。



バスを降りて建物に向かう入口の所には、いつでもカラフルな花が咲いている「ウェルカムガーデン」が完成。



改修前

改修後

屋外空間につくった花壇で団地の人々が出会い、交流が生まれ、暮らしに誇りが持てるようになる。歴史ある団地は新しい魅力をもたらし、美しい花を咲かせはじめた。



上／完成から50年が過ぎた藤山台団地の商店街。右／6月には藤山台50周年記念式典が開かれた。左／名古屋圏のベッドタウンとして開発された高蔵寺ニュータウン。藤山台をはじめとする7つのエリアと、商業施設が集まったセンター地区からなる。



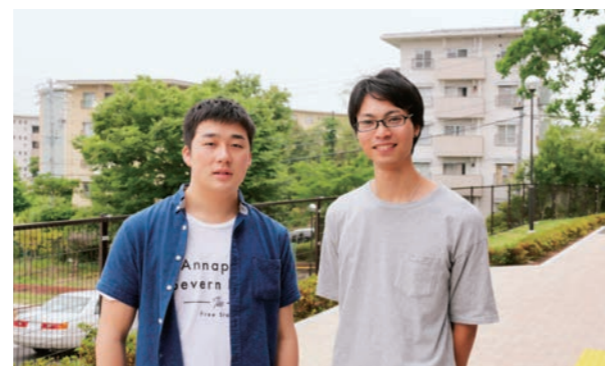
上・右／中部大学の学生たちが、高蔵寺ニュータウン50周年記念事業のひとつ「第16回楽しんで防災2018 あじさい祭り」の準備作業に参加。テント張りや荷物運びなどの力仕事を、率先して手伝っていた。左上／秋に団地集会所で大学生たちが開く「コーヒーサロン」(上)と、東部市民センターで行われた大学生たちの地域貢献活動の報告会(下)。



KOZOJI NEW TOWN

団地に住む学生たちのリーダーを務める辻合志さんは経営情報学部の3年生、金城星太さんは応用生物学部の3年生。入学時からこの制度を利用して団地に住んでいる辻合さんは、

的な情報は、自治会側から大学の学生支援課に伝えられ、学生同士が話し合っ、各自がどのイベントに参加するかを決めるとい。この制度がスタートした15年度には、21人の学生が高蔵寺ニュータウンのUR賃貸住宅に入居。その後、年々入居者は増え、今年度は71人が団地暮らしを楽しんでいる。



団地に暮らす学生たちのリーダーを務める金城さん(右)と辻合さん(左)は、「暮らしてみると団地には子どもも多く、にぎやかな印象です」と話す。



「地域の運動会やグラウンドゴルフの大会では、大学生が頼りです」と話す自治会長の星子さん。

「家賃の割引に魅力を感じて入居しました。部屋は十分な広さで、思ったより遮音性も高く快適です」と。と団地暮らしに満足の様子だ。浜松市出身の金城さんは、2年生のときに学生寮から引っ越してきた。中学時代に地元でボランティアの経験があり、地域活動への参加に違和感はないと、やはり団地暮らしを楽しんでいる。

藤山台団地の自治会長を務める星子浩さんは大学生の参加を大歓迎する。「力仕事を中心に、学生さんたちがいなければ成り立たない行事もあるくらい頼りにしています。うちの自治会には、20年以上自治会活動に関わっている役員さんが多くいらつしゃいます。そこに大学生たちが、ときには企画段階から参加してくれる。これが自治会をはじめ、イベント参加者たちにもとてもいい刺激になっています」

大学生たちは秋に団地の集会所を使ってコーヒーサロンも開いている。学生たちが丁寧に淹れたコーヒーを無料でふるまうおしゃべりサロン。団地の人々からお菓子の差し入れもあり、そのお菓子をつまみながら、いろいろな話をするといい。「帰り際に、『若い人とおしゃべりできて楽しかった』と笑顔で話してくれたおばあちゃんもいました」と辻合さん。「自分が全然知らない世界の話が聞けて勉強になります」と金城さんという。



今年4月、藤山台団地に隣接する旧藤山台東小学校が、多世代交流拠点施設「グルッポふじとう」としてオープン。カフェや図書館などが入り、地域の人々に利用されている。

これから50年に向けて 大学生パワーを注入

3 高蔵寺ニュータウン 愛知県春日井市

日本三大ニュータウンのひとつともいわれる高蔵寺ニュータウン。入居から50年を迎えた団地では、地域のイベントを手伝う大学生の姿をよく見かける。地元の大学と連携し、学生たちの力を借りてまちを活性化しようという試みが始まっているのだ。

新しい50年へ リ・ニュータウン計画

名古屋市の北東、春日井市のゆるやかな丘陵地に、URの前身である日本住宅公団が手がけた高蔵寺ニュータウンが広がっている。1960(昭和35)年から計画づくりが本格化し、約700ヘクタールに8万1000人が暮らす大きな規模で、最先端のまちづくりが行われた。最初に完成した藤山台地区は1968年に入居が始まり、今年6月、50周年を祝う式典が開かれた。来賓あいさつに立った春日井市の伊藤 太市長は、「新

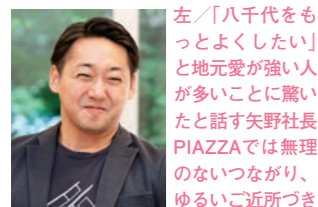
しい50年のスタートです」と祝辞を述べ、高蔵寺ニュータウンで進む多世代交流拠点の整備など、春日井市が策定した「高蔵寺リ・ニュータウン計画」について語った。高度経済成長とともに増加した高蔵寺ニュータウンの人口は95年をピークに減少が始まり、少子高齢化の波が押し寄せている。だが、ここではまちの魅力を生かしつつ、地元の大学の力を借りてまちの活性化にチャレンジしているという。

地域活動参加で 家賃を割安に

「春日井市と、同市にある中部大学から、URにニュータウンへの学生の入居促進に対する協力の申し出があったのは2014年のことです。同年12月に3者で確認書を交換し、URと中部大学の間で『地域連携住居制度』がスタートしました」。UR中部支社の五十嵐和晃が、その仕組みを説明する。これは中部大学の学生に地域活動に参加してもらおう代わりに、家賃を割り引くというもので、地域活動への参加はポイント制。地域活動の具体



上/PIAZZAが協働運営する東京都中央区にある「グロースリンクスカチどき」。巨大な遊具をはじめ、親子で楽しく過ごせるしかけがいっぱい。



左/「八千代をもっとよくしたい」と地元愛が強い人が多いことに驚いたと話す矢野社長。PIAZZAでは無理のないつながり、ゆるいご近所づきあいを大切に、困ったときに頼り合える関係を目指している。PIAZZAの会員は全体で約25,000人。



左/フリーマーケットでは朝採りの新鮮野菜の販売も。空心菜やルバーブなど人気。下/フリーマーケットには野菜や本、子どもの洋服、手づくり品などが並び、参加者の交流が自然に繰り広げられていた。



PIAZZAを支える女性たち。左から日尾奈美子(UR)、白井美恵子さん(PIAZZA会員)、宮本亜佳音さん(PIAZZAコミュニティーデザイナー)、松尾知佳(UR)。

YACHIYO

できたので、子育て世代だけでなく多世代で自然に交流できるのがありがたいです」

PIAZZAと共に人が支え合うまちづくり

PIAZZAを八千代で展開する働きかけをしたのは、URの千葉エリア担当の若手職員たちだ。「もっと若い人がつながる機会を増やして、団地を明るくしたい」とスタートしたプロジェクトのメンバーが、住民のつながりができれば団地の魅力になると考え、東京中央区にある子育て支援施設「グロースリンクスカチどき」を視察。そこで出会ったのが施設を協働運営するPIAZZAの矢野晃平社長だった。「地域に特化した独自のコミュニティアプリを運営し、デジタルとリアルを融合させながら、人が

URにとって地域密着のコミュニティアプリを導入するのが初めてなら、PIAZZAも、団地での取り組みは初めての挑戦だ。社名とアプリ名にもなっているPIAZZAは「広場」を意味するイタリア語。地域に関心を抱き始める子育て世代にアプローチして、時代に合ったソーシャルコミュニティである「広場」をつくることをPIAZZAは目指している。

今、手を打つことが未来の少子化対策に

URのメンバーは、課題をひとつずつクリアし実現にこぎつけた。PIAZZAがスタートしたのは昨年8月。それに先立ち、URから八千代市にもお声がけし、コミュニティ形成に関する三者協定を締結。アプリを通して行政からの情報の受発信も可能になった。

「若い世代が多く暮らす高層マンション群も、数十年後には少子高齢化の波が訪れます。住民が繋がってコミュニティが成熟していけば、そのまちな価値も高まると思うのです」と矢野社長。今、手を打つことが未来の少子化対策につながるかと考えているのだ。逆に言えば、手を打たなければ大問題となることを心配している。PIAZZAの考えに共感するURの日尾奈美子は、「同じエリアに住んでいる人と顔見知りになつたり、得意分野を生かして教え合えるのは魅力的。何かのときにも安心です」と微笑む。

八千代ゆりのき台パークシティに暮らす白井美恵子さんのPIAZZAへの期待は大きく、積極的に参加している。「アプリは毎日楽しく見えていますし、イベントや教室を通して子育て世代はもろろん自分の親世代の方と仲よくなり、自宅に遊びに行くなど交流が広がってうれしいです」と話す。

今後コミュニティが活性化していけば、八千代のまちな価値は確実に高まっていくだろう。未来に向けた種が、少しずつ芽を出し始めている。

地域コミュニティーアプリがらむぐゆるやかなご近所づきあい

4 八千代ゆりのき台パークシティ 千葉県八千代市

地域密着コミュニティーアプリを活用し、若い世代を呼び込むコミュニティーづくりを進めている団地がある。PIAZZA(ピアッツァ)というアプリを使って目指すのは、リアルな人のつながり。人々が支え合うまちづくりだ。舞台は千葉県八千代市、導入に注力したのはURの若手職員だ。



上/人気の「おやこ英語教室!」は、0・1歳児クラスから小学生クラスまで。右・下/活動拠点にと、団地内の集会所を改修。ペインティングアーティストを招き、パステルカラーの壁に囲まれたフローリングの明るい部屋に生まれ変わった。集会所の壁のペイントワークショップには、子どもたちも参加。



アプリを活用してリアルなつながりをつくる

そもそも地域密着コミュニティーアプリ「PIAZZA」とは何か? 特定の地域に関わる人がSNSを通してやりとりできるツールで、自己紹介的なキャッチフレーズ、出身地などを登録して会員になると、「教えて」「お知らせします」といったご近所ならではのモノとコトの情報のシェアが可能。八千代エリアでは、URが管理する「八千代ゆりのき台パークシティ」と「村上団地」の住民など、20・70代の約1000人が登録し、「子どもと一緒に入れるカフェを



20年前に建てられた八千代ゆりのき台パークシティ。最寄り駅は東葉高速鉄道「八千代中央」で、大手町や日本橋まで約40分。

教えて」とか「おもちゃをお譲りします」などのやりとりを日々行っている。利用者からは「毎日常しみに見ている」と好評だ。PIAZZAの強みは、若い世代が利用しやすいアプリを活用しつつ、実際に顔を合わせる機会を大切にしていることだ。6月に八千代ゆりのき台パークシティの集会所で開かれたフリーマーケットもそのひとつ。告知はもちろんアプリで行った。1000人で簡単に情報共有できるのは大きな魅力だ。ママカフェやおやこ英語教室なども定期的に開催している。活動のキーとなっているのが、コミュニティーデザイナーと呼ばれる担当者の存在だ。八千代では宮本亜佳音さんがその役割で、新たに入ったメンバーのフォローや、イベントの企画・告知・開催などにきめ細かく対応。デジタルとリアル、そしてPIAZZAとURのつなぎ役として活躍している。以前からコミュニティーづくりの活動に取り組んでいた宮本さんはPIAZZAの活動に賛同。地元での展開に喜び参加した。「URさんが集会所を使いやすく改修してくださり団地内に拠点が

東日本大震災 復興の歩みフォト&スケッチ展2018

作品募集中!

URでは、東日本大震災からの復興の歩みを広く発信し、一日も早い復興を支援することを目的として、今年も「東日本大震災 復興の歩みフォト&スケッチ展」を開催、広く作品を募集中です。入選作品展は来年2~3月に開催予定です。皆さまふるってご応募ください。

■東日本大震災 復興の歩みフォト&スケッチ展2018

- テーマ** 復興の歩み
- 応募締切** 平成30年9月17日(月・祝)
- 応募資格** どなたでもご応募いただけます。ただしプロの写真家や画家の方はご遠慮ください。
- 賞** 大賞：フォト、スケッチ各1点、優秀賞：5点程度、入賞：15点程度

■応募方法など詳しくは
<https://www.ur-net.go.jp/fukkou-photosketch/contest2018/>



復興の歩み 大賞(スケッチ)「共に歩む」
 久保安加莉さん 描いた場所：宮城県石巻市



復興の歩み 大賞(フォト)「再会」
 三浦玲華さん 撮影場所：宮城県仙台市

フォト&スケッチ展 2017 入賞作品

5人の有識者らによる審査の結果受賞した作品の一部、をご紹介します。

復興の歩み賞



「一本まつとクレーン車」
 菅原ゆいさん 描いた場所：岩手県陸前高田市



「市街地一望」
 相原 徳さん 撮影場所：宮城県仙台市



「7年ぶりの歓声」
 遠藤清作さん 撮影場所：福島県いわき市



「7年目の航空祭」
 相沢 開さん 撮影場所：宮城県東松島市



「明日もまた「ココ」で」
 日野 大さん 撮影場所：宮城県石巻市



「海の方を見て何を思う」
 渡邊琢磨さん 撮影場所：宮城県仙台市

東京都 光が丘パークタウン ゆりの木通り北

お酒と料理の店 小万

旨いものにこだわり 地元の人に愛される店へ

今年6月、光が丘パークタウン ゆりの木通り北の商店街にオープンした「お酒と料理の店 小万」。壁やテーブルが石造りで高級感が漂う店内だが、日本酒の純米吟醸などお酒は1杯500円。さらに、刺身やとこぶし煮付け、卵焼きや野菜などが美しく上品に盛り付けられたお通しも500円とリーズナブル。「ずっとこの団地で暮らしてきて、近所の方々が気軽に立ち寄って、おいしいごはんとお酒が楽しめる店をつくりたいと思っていました」とオーナーの小沼源弥さん。おすすめの料理をお聞きすると、「おにぎりや卵かけごはんをぜひ召し上がってください。私の故郷、会津産の日本一おいしいお米でつくっています」。旬の食材を使った創作料理も絶品で、おいしいお酒と料理で、笑顔になれる店だ。



店内の石壁は、アンモナイトなどの化石も見られる約2億年前の地層の石を使ったもので、石屋を営むオーナー小沼さんのこだわりだ。店内をやさしく包んでいる。

東京都板橋区赤塚新町3-32-14
 光が丘パークタウン ゆりの木通り北
 ☎03-6909-2370 ☎17~22時 ☎水曜



酒の肴にぴったりのお通し(手前)と、この日のおすすめ料理、クリームチーズがアクセントになったトマトのカプレーゼや丸ナスの田楽。思わず写真に撮りたくなる。



上/福島・会津の酒蔵から取り寄せたものを中心に、東北や新潟県の本酒が30種以上揃う。右/押しメニュー、白米のおにぎり。お米の粒が大きくて甘みがある。



団地の外からもお客さんがやってくる。人気を誇る名店がある。そんなお店を探して、団地に足を運んでみませんか?

隠れた名店 見つけた!

お

い

し

い

団地

1

福岡県 日の里一丁目団地

レストラン・アワノ

本格洋食がリーズナブルに 味わえる、団地のオアシス

JR東郷駅前の日の里一丁目団地1階に開店して20年。変わらぬ人気を誇っているのが洋食店「レストラン・アワノ」だ。じっくり煮込んだデミグラスソースがかかったハンバーグや、たっぷりの牛肉にショウガが効いた特製ソースが絶品の牛スパなど、味は本格派、値段はリーズナブルな逸品が、ランチなら1000円前後で味わえる。

オーナーシェフの栗野雅美さんは、福岡の人気洋食店で20年修業した後、満を持して出店。「帝国ホテル出身の師匠の教えを守り、職人気質で手間暇かけています。この味は天神の有名店にも負けないと自負しています」と胸を張る。リピーターも多く、テイクアウトも人気。笑顔の素敵な奥様と2人、変わらぬ味を守っている。

手づくりの味を守り続ける栗野さんご夫妻。店舗での営業のほか、宗像市役所や工場へ配達するお弁当も大人気。



上/ボリュームたっぷりの牛肉のつたスパゲティに、ショウガの効いたソースをかけて、アツアツをいただく人気メニュー「牛スパ」。

下/肉の旨みを凝縮したハンバーグと、濃厚なデミグラスソースが相性抜群!



店はJR鹿兒島本線東郷駅前、日の里一丁目団地1階アーケードの一角にある。



福岡県宗像市 日の里1-10-102-105号
 ☎0940-37-2262
 ☎12時15分~21時
 ☎日曜

多世代が育む循環型のまち

地下鉄大江戸線の新江古田駅から徒歩約10分。国家公務員宿舎の跡地である4・4ヘクタールの緑豊かなエリアに誕生した「江古田の杜」^{えこたのもり}。ここでURは持続可能な多世代交流型のまちづくりに挑戦している。

エリアマネジメントで持続可能なまちを

見上げれば20メートルを超すユリノキやサクラの大木、足元には多種多様な草花。敷地内にはカブトムシが潜んでいるような雑木林のような空間もある。池袋や新宿から約5キロという立地ながら、「こつてホントに東京？」と声をあげてしまふような豊かな緑に包まれた心地よい空間。その敷地内に春から入居が始まった分譲マンションのほか、ファミリー向けの賃貸マンションや学生寮、サービス付き高齢者向け住宅などが建設中で、病院まで集まっている。それが江古田の杜だ。環境の良さに加え、ライフステージの変化に合わせて循環型の住み替えを可能とするバリエーション豊かな住宅やサービス、医療機関が揃うとあって、注目を集めるニースポットでもある。

この地を2008年に取得して以来、再開発にあたり地元中野区と話し合いを重ねてきたUR。十分な避難路や周辺の緑と調和した環境の確保をはじめ、子育て世代を呼び込むファミリー向け住宅の建設、さらには区の北部で不足している小児初期救急診療、病児・病後児保育の施設導入といったかなりハードルが高いものも含め、地域の要望に応えるため尽力続けてきた。

「その実現のために公募で選ばれたのが総合東京病院さんと積水ハウスさんで、江古田の杜プロジェクトを支える重要なパートナーです」とURの白井 伸は説明する。江古田の杜プロジェクトの特徴であり、URがこだわったのは、エリアマネジメント活動が継続的に行われる体制を整えること。民間企業に土地を引き渡した後もURが関わり続け、住宅事業を統括する積水ハウス、さらに総合東京



北側の「江古田の森公園」とつながるように広がる「江古田の杜」(手前中央)。高層階からは新宿の高層ビル群も望める。



総戸数531戸の分譲マンション「グランドメゾン江古田の杜」(左)のすぐ横に、総合東京病院の新棟(右)が建つ。賃貸住宅の敷地内には医療従事者用のマンションもあり、災害時にも迅速な対応が可能。



左/手前にリブインラボ、その奥に学生寮や家庭用燃料電池エネファームを設置したサービス付き高齢者住宅を建設中。
下/右手奥の白い建物が10月から入居開始予定の賃貸マンション。



病院の三者で「江古田三丁目地区まちづくり協議会」を結成した。このように官民一体となつてまちづくりで協働しているのは珍しい。「多世代により育まれる持続可能な地域をつくる」というコンセプトのもと、それぞれ得意分野でノウハウやアイデアを出し合いながら一体感のあるコミュニティづくりに力を注いでいるのだ。

目指しているのは、学生や若年ファミリー世帯から、サポートが必要になつても安心・快適な暮らしを望む高齢者まで、多様な世代が愛着をもつて住み続けられるまち、交流しやすいまちづくり。その実現が地域の価値を持続的に高めることは間違いない。

「URさんが目指す、多世代交流を目的としたコミュニティの醸成」に賛同し、我々が都市の再開発で手がけてきた多世代交流型の企画を江古田の杜ではひとつの街区のなかに集中して入れています。周辺地域の方が利用できる施設もあり、交流の機会は多くなるでしょう」

なかでも10月にオープン予定の「リブインラボ」はその象徴。一般の人も利用できるレストランも入るコミュニティ拠点で、子育て支援イベントや世代間交流イベント、健康講座やサークル活動などが行われる交流施設になる。

病院がすぐ近くにある安心感に加え、周辺地域の人も含め多世代が集まることで交流が広がり、子どもの見守りにもなり、にぎわいが生まれるという効果も見込まれる。それによって、住民のまちへの愛着や長く住みたいという気持ちにつながるのが理想だ。その実現が簡単なことではないのは心得つつ、「多世代が共に暮らす循環型のまちづくり」のモデルとなる日を夢見て励む関係者たち。秋以降のまちびらきに向けて住宅や施設が完成間近となるなか、「江古田の杜プロジェクト」の今後の展開に期待が高まる。



上/敷地内のどの木を残すかはもちろん、どの枝を残すかまで事前に協議するほど植生にこだわった。



左/「小児初期救急診療に対応できる医療機関も入り、地域の方に安心安全なまちを提供できました」と話すURの白井。



「行政と民間の調整や町内会との橋渡しなど、URさんの対応はきめ細かい」と話す渡邊院長。



「世代やライフステージに即した多彩な住宅とサービスを用意しました」と積水ハウスの宮島部長。

子どもから高齢者まで多世代交流でにぎわいを

住宅に先駆けて2017年4月には、小児初期救急等の機能を備えた総合東京病院の新棟がオープン。同院の渡邊貞義院長は、「小児→急性期→回復期→施設介護→在宅介護まで、一貫して対応できる地域の中核的医療機関の役割を果たすことを目指している」と語る。

その心強い言葉と響き合うように、サービス付き高齢者向け住宅や介護付き有料老人ホームの建設が進められ、今後、認可保育所や学童クラブの開所も予定さ

0m 250m



URのまち

あのまち このまち 歩いてみよう! その15 大阪府堺市 サンヴァリエ金岡周辺

URが手がけた団地のまわりには、素敵なまちが広がっています。地図を手に歩いてみませんか?

団地名	建替前	管理開始
サンヴァリエ金岡	金岡団地(公団住宅第1号)	1997年~

堺伝統産業会館
堺の伝統産業を見て体験して、買える施設。

ザビエル公園
堺に来たフランシスコ・ザビエルをもてなしたキリシタン商人の屋敷跡。

1532年創業 利休も好んだ老舗和菓子店 本家 小嶋
秘伝の芥子餅

2015年3月オープン 1Fでは千利休、2Fでは与謝野晶子と、ダブルで深く学べる。

茶の湯 体験施設
立礼席では表裏・武者小路の三千家いずれかのお点前で抹茶とお菓子が楽しめる。

銀シャリ屋 ゲコ亭
最高にうまい銀シャリとバリエーション豊かなおかずが大満足!

かん袋
1329年創業。商品はくるみ餅だけ!

南京寺
利休が修行し、禅の心を茶の湯に昇華させた寺。

堺の伝統産業ピックアップ

堺刃物
職人がこぞって使う!

堺線香
香の芸術品!

堺の銘品が何でもそろおう!

堺東駅

堺市役所展望ロビー
21階・80mの高さから360°の眺望!

堺市茶室 伸庵
立礼席もあり、いつでも気軽に呈茶を楽しめる。

旧堺市街
中世に環濠(堀・土居川)でぐるっと囲んで発展した自治都市エリア。大坂夏の陣で焼き払われたが、その後徳川幕府が再興し、再び発展した。

1911年開業の歴史ある路面電車

- 現役最古 約90歳!
- 約60歳!
- 3歳!

モ161形 モ501形 堺トラム青5ん

堺 歴史と伝統のまち

堺は私たちのふるさとです!

千利休 与謝野晶子

堺大好き!
古墳群は2019年の世界文化遺産登録を目指しています。2022年には千利休生誕500年を迎えます。ますます盛り上がる堺です!

堺観光ボランティア協会 ボランティアガイド
福井洋子さん・中西美恵子さん

堺は人があったかいよ、気ラクに来てや!

昭和23年ここで創業して3代目。堺は人があったかいよ、気ラクに来てや!

溝畑酒店 溝畑 勝さん 恵子さん

堺市茶室 伸庵
立礼席もあり、いつでも気軽に呈茶を楽しめる。

堺市博物館
堺の歴史と文化を豊富な資料で展示。

堺市茶室 伸庵
立礼席もあり、いつでも気軽に呈茶を楽しめる。

堺市駅

アベイン堺駅前 ベルマージュ堺式番館

堺市茶室 伸庵
立礼席もあり、いつでも気軽に呈茶を楽しめる。

堺市博物館
堺の歴史と文化を豊富な資料で展示。

堺市茶室 伸庵
立礼席もあり、いつでも気軽に呈茶を楽しめる。

堺市博物館
堺の歴史と文化を豊富な資料で展示。

NPO法人 堺観光ボランティア協会
現在約240名で活動中。おもてなしの心でさまざまなガイドを実施。主要ポイントに無料のガイドが常駐!

スターハウス メモリアル広場
当時の「スターハウス」の室内を再現。

マルフジ
61個 100円!

団地とともに数十年! たこ焼きと駄菓子のお店。

堺市茶室 伸庵
立礼席もあり、いつでも気軽に呈茶を楽しめる。

堺市博物館
堺の歴史と文化を豊富な資料で展示。

サンヴァリエ金岡
1956年に建てられた公団住宅第1号の金岡団地を全面建て替え。

オシャレなツートンカラー

スターハウスでの新しい生活スタイルは、憧れの的となりました。

古墳展望度
☆☆☆☆

みくにん広場
駅ビル屋上(3階)にビュースポットあり。

すぐ目の前にこんもりとした小山が。(仁徳天皇陵古墳)

我ながら大きいなあ。

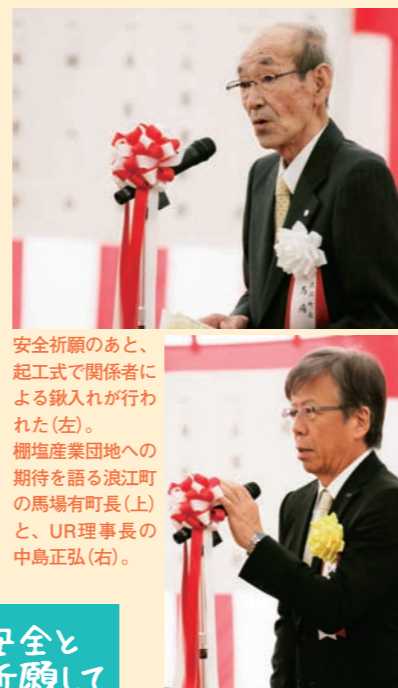
百舌鳥古墳群
4世紀後半~6世紀前半に堺周辺にたくさん古墳がつけられた(かつては100基以上あったが、現存するのは44基)。

古墳のつくり方
最初は木は生えていませんでした!

- まわりの土を掘りあごす
- その土を平らに積み上げる
- くぼみをきれいに整えて漆にする

古墳展望度
☆☆☆☆

百舌鳥古墳群VRツアー
300m上空からの眺めをバーチャルリアリティ体験。古墳の中のCG映像などもあり大迫力!



安全祈願のあと、起工式で関係者による鉄入れが行われた(左)。棚塩産業団地への期待を語る浪江町の馬場有町長(上)と、UR理事長の中島正弘(右)。

工事の安心安全とまちの復興を祈願して

起工式を終え、UR浪江復興支援事務所所長の塩間学は「期待の高さと使命の大きさをひしひしと感じました」と話す。事業の計画立案の段階から関わってきたURは、多くの関係者の思いや要望を受けとめ、計画を進めてきた。スピードが求められるこのプロジェクトでは、何を優先

時間と闘いながら全力で

吉野正芳復興大臣をはじめ多くの来賓が出席した起工式で、浪江町の馬場有町長は、この1年の取り組みと変化を振り返り、まちに少しずつ人々の営みが確認できるようになったことを説明。雇用促進の場ともなる復興のシンボル、棚塩産業団地について「この拠点、核としたまちづくりを推し進め、必ずや浪江の復興をなすとげたい」と静かに強く語った。浪江町から棚塩産業団地整備事業を受託したUR理事長の中島正弘は、「期待の集まる施設の早期稼働に向けて、URが培ってきたノウハウや能力をすべて發揮して基盤整備に取り組んでいく」と表明した。

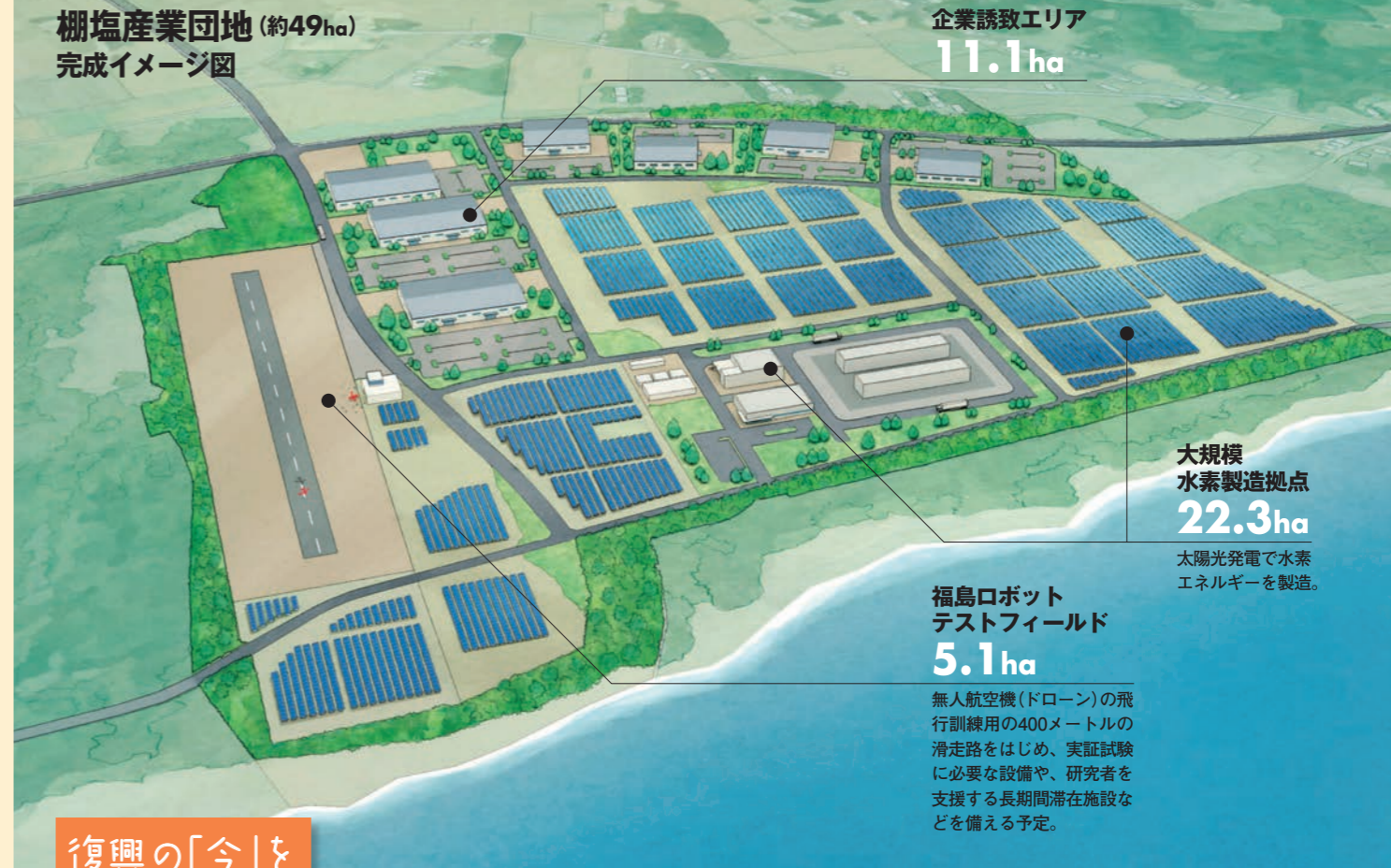
このプロジェクトでは、何を優先するのかが、どこまで整備するのかといった調整が重要で、そこにURが持つ半世紀を超えるまちづくりのノウハウが注ぎ込まれている。インフラの整備は2019年度末に完成予定。2020年東京オリンピック・パラリンピックで、この地で作られる水素エネルギーの活用を目指しているため、時間の余裕はない。「施設の建設計画を最優先して、土の運搬や道路工事などの細かい展開計画を作成し、基盤整備を進めていきます」とURの中山誠は説明する。最先端の注目施設が完成した暁には、研究者を含め国内外から多くの人がこの地を訪れることになるだろうと塩間は期待を寄せる。「国の協力のもと、浪江町、福島県、施設整備事業者、URが一丸となって取り組んでいます。大変ですが、やる気のある人間ばかりが集まっているので、動きも早いです」



やりがいのある仕事に全力で取り組んでいます!



UR浪江復興支援事務所のメンバー。左から中山 誠、塩間 学、真田研司、山下哲弘。



復興の「今」を見に来て!
第13回
浪江町
福島県

まちの核となる注目の産業団地の整備、始まる!

7年間の臥薪嘗胆の日々を経て起工式ができますことを衷心より感謝申し上げます。4月15日、浪江町で開かれた棚塩産業団地の起工式は、司会者の厳粛なあいさつから始まりました。現在、福島県の沿岸地域では、東日本大震災および原子力災害で



棚塩産業団地が整備される沿岸部。町が造成工事や道路整備を行い、福島県や国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)などが施設の建設を進める。

長く町内全域に避難指示が出されていた浪江町で、避難指示が解除された(帰還困難区域を除く)のが昨年3月31日。それから約1年後の今回の棚塩産業団地の整備スタートは、まさに「苦労を重ねながらチャンス到来を待つ」臥薪嘗胆の日々を経ての節目であり、関係者の期待は大

失われた産業の新たな基盤構築と、人材育成、交流人口の拡大を目指す「福島・国際研究産業都市(イノベーション・コースト)構想」が進められている。浪江町にはその一環として、世界最大級の水素製造拠点や、無人航空機(ドローン)用の実証実験施設を含む「福島ロボットテストフィールド」の一部が造られる計画。その舞台となるのが「棚塩産業団地」だ。

①室内の安全対策

最も大切なのは室内の安全対策。高齢者は家にいる時間が長く、かつ物が多い傾向にありますので、寝室やリビングなど長くいる部屋から順番に、背の高い棚や重量のある家電などを固定しましょう。水や食品など重量のあるものを戸棚の下へ移動するだけでも効果的ですし、粘着式の固定グッズを使えば、壁を傷つけずに安全確保ができます。

②避難の準備

大地震による津波や大火災、大雨による浸水や土砂災害など、その場にとどまると生命に危険が及ぶ場合は、速やかに避難します。走って移動することが困難な方は、「避難勧告・避難指示」の前の「避難準備・高齢者等避難開始」が発表された段階で移動を開始。持ち出す物をまとめておくことも大切です。



③被災生活の準備

2011年の東日本大震災では、3,600名を超える方が「震災関連死」で命を落としています(執筆時点)。ほとんどが高齢者で、原因の多くは避難所生活の疲労やストレス。震災関連死を防ぐには、避難所へ行かずにすむ方法を考えることも重要で、そのためには非常用トイレの備蓄が大切です。建物が無事で、トイレが使えれば、避難所へ行かなくても生活できます。水や食料の備蓄とあわせ、まずトイレ備蓄を行いましょう。



文・写真 高荷智也(ソナエルワークス代表)

高齢者世帯の防災対策

「避難所へ行かない準備」が重要!

入れ歯なしで食べられる柔らかい食事、避難所での肺炎を防止する口腔ケアグッズなど、高齢者向けに様々な防災グッズが販売されています。しかし、防災対策でまず重要なことは、災害から命を守ること。水や食料があっても、避難ができずに命を落としてしまえば無駄になりますし、逆に建物と室内が無事であれば、家にある物で生活を維持することができます。

高齢者は個々人で生活環境や体力に大きな差があります。「高齢者の防災」とひとくくりにせず、「自分の場合は?」と考えて、「何を準備すれば命を守れるか」を基準に準備することが重要です。



たかにもや
「備え・防災は日本のライフスタイル」をテーマに、自身が運営するWebサイト、各種メディアやセミナーを通じて防災を解説するフリーのアドバイザー。
「備える.jp」
<http://sonaeru.jp>

ベランダで楽しむ 四季の寄せ植え Flower pot arrangement vol.5

文・写真 黒田健太郎

ユーカリを主役に、葉色を楽しむ爽やかな寄せ植え

リビングから見えるベランダに、グリーンを一鉢置きたい。そんな方におすすめなのが、シンボリックな樹木をメインにした寄せ植えです。今回の主役は、シルバーブルーの小さな葉が美しく、香りもよいユーカリです。ユーカリの株元には、ライムイエローやクリーム色などのカラーリーフと、白い小花が涼し気なユーフォルビアをコーディネートして、爽やかな印象に仕上げました。ユーカリは枝が茂りすぎたら、枝をすくようにカットして樹形を整えます。カットした枝は、風通しのよい日陰で逆さに吊り下げておくと、簡単にドライフラワーになります。今回は、ブリキ製の鉢カバーの底に排水用の穴を開けて鉢として使っています。ブリキは溶接部分や開けた穴から錆が発生することがあるので、お皿を敷いておくとういでしょう。



手順

隣り合う植物が互いに引き立て合うように、葉色を考えて配置します。

- ドリルやキリを使って容器の底に水はけ用の穴を開ける。
穴が小さすぎると目詰まりして排水できないことがあるので、10mm以上の穴を数カ所開ける。
- 穴を開けたら鉢の高さの1/5程度まで鉢底石を入れる。
- ユーカリの根鉢をやさしくほぐす。鉢底石の上に培養土を数cm入れて鉢の中央にユーカリを植える。鉢の縁から2~3cm下にユーカリの根鉢の上部がくるように、培養土の高さを調整する。
根を傷つけないようにやさしくほぐすと、根の活着がよくなる。
- ユーカリの周囲にBCDEFGHの順に苗を植える。根鉢の高さはユーカリと揃え、鉢の外側に向かって少しだけ傾けて植えると美しくなる。

管理のポイント!

真夏の間は風通しのよい半日陰に置き、乾かしぎみに管理します。残暑も和らいだ頃から日当たりのよい場所に移しましょう。

配置図



くらだけんたろう

埼玉県生まれ。園芸店「フローラ黒田園芸」勤務。自由な発想が生み出す洗練されたスタイルの寄せ植えが熟く支持されている。「12ヶ月の寄せ植えレシピ」(グラフィック社)ほか著書多数。フローラ黒田園芸 <http://florakurodaengei.com/>



ゆでたとうもろこし

とうもろこしはどんなふうにご飯に食べますか? 私は一列を丁寧にねじり取り、そこから列を倒してきれいに剥いて食べるのがこだわりです。

きゅうり漬け

ゆでたブロッコリーを薄めた白だしに浸したものを。

冷めてもおいしい

メンチカツ

玉ねぎと牛ひき肉に、卵、パン粉、塩、ブラックペッパーを加えて混ぜ、衣をつけて揚げる。ソースではなく醤油ベース。甘い餡を絡めることで、冷めてもおいしく食べられる。

枝豆ごはん

昆布と酒、塩を加えてごはんを炊き、ゆでた枝豆を混ぜる。

塩味のゆで卵

常温に戻した卵を沸騰したお湯に入れて8分ゆで、ゆで卵を作る。濃い塩水(飽和食塩水: 目安は100ccの水に36gの塩)を作り、その中に卵が熱いうちに殻のまま入れる。冷蔵庫で12~24時間寝かせれば、コンビ二で売っているような塩味のゆで卵が完成。お弁当にはもってこいです。



豆 故郷の山形には「だだちゃ豆」という絶品の枝豆があります。実家は田畑に囲まれています。

男子弁当 ススメ!

メンチカツと枝豆ごはん弁当

インは、つなぎを少なめにした、肉に優しいメンチカツ。醤油ベースの甘い餡を絡めてゴマをふつた子どもの頃から好きなメンチスタイルです。

文・写真 相田幸二

1975年、山形県米沢市生まれ。現在は宮城県在住。「幸せ料理研究家」としてテレビや雑誌で活躍。『こうちゃんの簡単料理レシピ』(宝島社)シリーズは230万部を超えるダブルミリオンセラーに。ブログ「こうちゃんの簡単料理レシピ」<http://ameblo.jp/wanwan2005/>



UR都市機構からのお知らせ

RENEWAL OPEN

新虎通りのコミュニティ施設 「新虎小屋」がリニューアルオープン

URは、東京の新たなシンボル
ストリート「新虎通り」に、地
域に密着しながらまちづくり支援を
行うにぎわい施設「URトラ」をつ
くり、運営してきました。この施設が
今年6月、「新虎小屋」としてリニ
ューアルオープンしました。
「新虎小屋」では、新虎エリアの地
域情報誌を配布し観光案内所として

も機能する「新虎GUIDE」、ランチ
タイムにカレーなどを提供する「小
屋めし」、まちの図書館として機能
する「とらの本」、以上3つのコンテ
ンツを中心に活動を展開。新虎通り
のにぎわいを生み出し、より魅力的
なまちづくりを進めています。お
近くにお越しの際には、ぜひのぞい
てみてください。

新橋と虎ノ門を結ぶ新たな道路「新虎通り」にあ
ります。



NEWS

長野県とURが 「まちづくり支援に係る包括連携に関する協定」を締結



長野県とURは、県が行う未来
に続く魅力あるまちづくりを
推進することを目的として、相互に
連携する協定を締結しました。
今後は県とURが協力して、県内
のまちづくりの支援や、まちづくり
に携わる人材の育成支援を行います。
具体的には、「信州地域デザイン

5月に行われた調印式。阿部守一長野県知事
(右)と、中島正弘UR都市機構理事長(左)。

センター(仮称)構築に向けた検討、
老朽化した公共施設や空き地、空き
家の利活用、民間の力を借りたまち
の活性化などの相談への対応、専門
家の派遣による各種事業やコーデ
ィネートなどを行い、長野県内のまち
づくりを応援していきます。

From Editors

コミュニティの活性化と一口にいって
も、そのアプローチは本当にさまざまです。
花壇をつくったり、ICTを活用したり。は
たまた学生協力を仰いだりと、全国の団
地で色々な試みが続いています。その根底
にあるのは、「何とかしなきゃ」という思い。
多くの人から話をうかがって、あらため
て気付かされたことがあります。それは、
自然な形で地域に溶け込めないと、長く続
かないということです。
ゆるくつながる、というコミュニティ。
無理をしないこの距離感こそが、人と人の
間に新たなコミュニケーションを生み、コ
ミュニティを育む源泉のひとつかもしれ
ませんね。(UR都市機構・広報担当TK)

次号のお知らせ

「UR PRESS」55号は
2018年10月末発行予定です。

「UR PRESS」オンライン版も お楽しみください!

「UR PRESS」はパソコンやスマートフォンでもご覧いただけます。巻
頭インタビューや記事のオリジナル動画なども掲載しています。ぜひご
覧ください。

UR PRESS で 検索
<https://www.ur-net.go.jp/publication/web-urpress/>

YouTubeでもさまざまな動画がご覧いただけます

UR都市機構の公式YouTubeでは、UR賃貸住宅、都市再生、
ニュータウン、震災復興など、URのさまざまな事業や情報を
動画でお伝えしています。「UR PRESS」オンライン版でこれ
までに紹介した動画や、テレビCMなどもアップ
しています。ぜひご視聴ください。

<https://www.youtube.com/user/URTOSHIKIKO/>



プレゼント付きクロスワードパズル

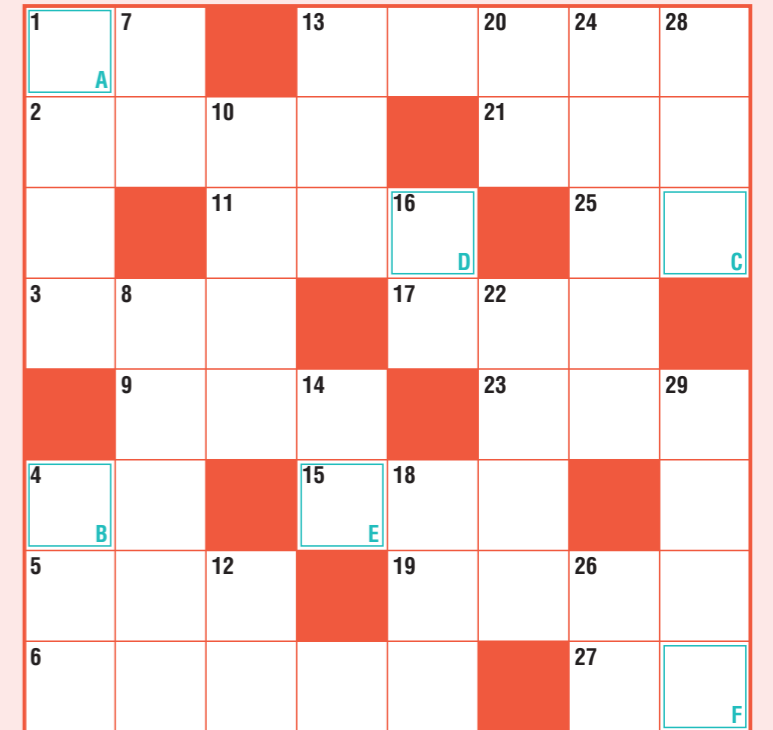
パズル制作 ニコリ

ヨコのカギ

- 1 向きの窓から夕日が差しこんできた
- 2 高速道路のICは——チェンジ
- 3 かつて事故が——していた交差点が立体交差になり、
事故が激減した
- 4 「鬼」とか「姫」とか「鉄砲」とかのある花
- 5 自分の息子をこう呼ぶ人もいます
- 6 なんでも知ってるウォーキングディクショナリー
- 9 食紅は食用——の一種です
- 11 ログハウスは——小屋
- 13 住人の名前が書かれています
- 15 スポーツ—— カジュアル——
- 17 涼しげな——を歩ける並木道
- 19 日本住宅公団による公団住宅第1号は
大阪府堺市の——団地
- 21 「——を下げる」とは笑みを浮かべること
- 23 十分に——して、良い品を選び出した
- 25 スポーツ—— セカンド—— ——ナビ
- 27 リサイクルされるガラス容器

タテのカギ

- 1 魚沼市や糸魚川市、燕市や長岡市は——県の市です
- 4 濡れてもにじまないように——のペンで書きました
- 7 シャーペンに入れるもの
- 8 サラサラサラッと——のメモを残す
- 10 ビリヤードとも言います
- 12 お店で買ったものを通すところ
- 13 靴のカカト。ハイ——
- 14 選手——の厚いチーム
- 16 糸を引いて空に揚げます
- 18 画家とも言います
- 20 ——酒 ——酢 ——干し
- 22 キーを差しこむところ
- 24 厳しくしつづけるか優しく接するか、
——が難しいなあ
- 26 ——に短しタスキに長し
- 28 樹木。——ハウス
- 29 テレビやラジオには、
公共放送と——放送とがあります



プレゼント&応募方法

クロスワードパズルを解いて、プレゼントにご応募ください。

PRESENT 1
From 大阪
蜂カレー&大阪港カレー
3名様



日本で初めてカレ
ー粉を製造・販売
した大阪の大和屋
(現・ハチ食品)。
その歴史ある味が
レトルトカレーで
楽しめます。日常
備蓄にもおすすめ。

PRESENT 2
From 愛知
名古屋名物麺3種セット
3名様

創業明治10年のなごやしめん亭のコー
チンきしめん、味噌煮うどん、カレー
うどんの乾麺3種(スープ付き)をセットに
してプレゼント。手軽に本格派の味をどうぞ。



PRESENT 3
From 福島 日本酒「鬼羅」5名様

会津の老舗蔵元、末廣酒造の本醸造(720ml)。すっきりとした飲み口
が特徴で、今号の「おいしい団地」に登場している「お酒と料理の店 小
方」オススメの日本酒でもあります。



●応募方法

本誌付属の応募はがきに、クロスワードパズルの
答えと希望プレゼント番号、必要事項をご記入の
上、郵送してください。

※応募はがきに記載のQRコードからもご応募いただけます。

●応募締め切り

2018年10月31日(当日消印有効)

当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

※お酒のご応募は20歳以上の方に限らせていただきます。

53号の解答

キ ボ ウ ノ マ チ

